

様式第1（第15条関係）

会 議 録

会議の名称	令和4年度第1回 和泉市子どもの読書活動推進協議会
開催日時	令和4年8月23日（火）14時～16時
開催場所	和泉市役所 3B会議室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会委員 小前委員、水沼委員、弓削委員、藤原委員、植野委員、坊内委員、石橋委員、柴田委員、戸出委員、絹岡委員、野井委員、熊取谷委員、吉村委員代理 ・事務局 生涯学習部：辻部長、西田生涯学習推進室長、橋本生涯学習担当課長、黒川生涯学習担当総括主幹、庄司主任、渡士主任 教育・こども部：阪下学校教育室長、子育て健康部：藤原健康増進担当課長、瀧こども支援担当総括主幹 和泉市立図書館：岩本和泉図書館長、小林シティプラザ図書館長 人権文化センター図書室：関本室長、猪上主任
会議の議題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会長及び副会長の選任について (2) これまでの経過、和泉市子ども読書活動推進計画についての説明 (3) 令和3年度数値目標の実績について (4) 令和3年度事業報告について (5) その他
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
その他の必要事項 （会議の公開・非公開、傍聴人数等）	会議：公開 傍聴人：なし

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

	<p>【開会挨拶】 【委嘱状及び辞令の交付】 【出席委員、事務局職員紹介】 【生涯学習部長挨拶】</p>
事務局	<p>それでは次第の 5、議事に入らせていただきます。 なお、本日の会議は、委員 13 名中、13 名様のお出席をいただいております。和泉市子どもの読書活動推進協議会規則第 6 条第 2 項の規定により、過半数に達しておりますので、当会議は成立していただきますことをご報告申し上げます。 それでは、（1）会長及び副会長の選任につきまして、和泉市子どもの読書活動推進協議会規則第 5 条第 1 項にて、協議会に会長及び副会長各 1 人を置き、委員の互選により定める、と規定されております。どなたか、立候補またはご推薦はございませんでしょうか。</p>
委員	<p>事務局に一任させていただきたいと思っております。</p>
事務局	<p>事務局一任のご意見が出ておりますが、賛成の方は、拍手でもって確認させていただきます。</p>
委員	<p>～拍手～</p>
事務局	<p>ありがとうございます。それでは、会長と副会長を事務局より指名させていただきます。会長に前回に引き続いて小前委員、副会長に柴田委員にお願いいたしますが、いかがでしょうか。皆様の拍手でもって確認させていただきます。</p>
委員	<p>～拍手～</p>
事務局	<p>ありがとうございます。それでは全員一致で、会長に小前委員、副会長に柴田委員を選任させていただきます。お二方にはお手数をお掛けすることとなりますが、どうぞよろしくお願いたします。それでは、小前会長、柴田副会長、前のお席へ移動をお願いいたします。 それでは、ここからの進行につきましては、和泉市子どもの読書活動推進協議会規則第 6 条第 1 項の規定に基づきまして、小前会長に議長として議事進行をお願いいたします。それでは会長、よろしくお願いたします。</p>
会長	<p>はい、それではまず簡単にご挨拶させていただきます。子どもの読書活動推進協議会の会長ということでご指名いただいた小前です。どうぞよろしくお願いたします。</p>

事務局

この協議会につきましては、3年前に対面でお会いして以降は、書面でのやり取りという形で実施して参りました。今年度から新たなメンバーでこのように開催できることとなりまして、対面のほうがお話しやすいこともあるかと思っておりますので、今日は皆さんの忌憚ない意見を聞かせていただいて、和泉市の子ども読書活動について考えて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、議事を進めさせていただきます。次第の5、議事の(2)これまでの経過、和泉市子ども読書活動推進計画について、事務局より説明をお願いします。

事務局より、これまでの経過と第3次和泉市子どもの読書活動推進計画につきまして、ご説明いたします。資料番号1の第3次和泉市子どもの読書活動推進計画の冊子をご覧ください。この計画は、平成29年度と30年度で5回にわたり子どもの読書活動推進計画策定委員会を開催し、今から約3年半前の平成31年3月に策定されたものです。

この第3次計画ですが、1頁の第1章第3次計画の策定にあたって、1-1策定の経緯をご覧ください。まず、平成17年3月に第1次の子どもの読書活動推進計画が策定されました。そして、その8年後の平成25年3月に第2次計画が策定されました。そして、第2次の計画から5年後、子どもの読書環境が大きく変化したため、また、さらなる子どもの読書活動の推進を図るために、平成31年3月にこの第3次計画が策定されました。また、この子どもの読書活動推進協議会につきましては、第2次計画が策定されたのと同じ平成25年に発足いたしました。発足以降、毎年1回から2回会議を開催し、計画の管理を行いながら計画に基づき施策を推進してまいりました。

次に、4頁をご覧ください。この第2章では、第2次の計画期間中の子どもの読書活動の状況を記載しています。5年前のアンケート結果でございますが、表の1と2をご覧くださいと、小学校高学年からは、学年が上がるにつれて「読書が好き」と答えた子どもの割合が下がり、「家で本を読まない」と答えた子どもの割合が上がってきています。これらの原因としては、小学校高学年からは勉強や習い事が忙しくなったり、インターネットやスマートフォンの普及により生活習慣が変わったことで、読書の時間が減ってきていることが考えられます。これらのことをまとめた頁が、13頁となりますので、ご覧ください。2-6第2次計画の成果と課題としてまとめておりますが、その中で課題の1つ目に、先ほどのことを記載しています。また、課題の2つ目に、保護者が本を読むのが好きでない割合が高い、ということも記載されています。そのような課題を踏まえ、第3章に第3次計画の基本的な考え方を記載しています。14頁をご覧ください。3-1計画の基本理念としまして、小学生までの子どもには、大人と一緒にあって、読書の楽しさや、読書によって得られる効果、読解力や想像力を身に付けていけるように導き、また、中学生と高校生には、自主的な読書習慣を身に付けるために、市立図書館と学校図書館が協力し、「本が大好き・和泉っ子」を増やすことを目標にしております。

	<p>次に、15頁の3-6計画の進行管理をご覧ください。第3次計画を実行していくために、PDCAサイクルを重視しながら、毎年、和泉市子どもの読書活動推進協議会において、計画の進捗状況の検証など、進行管理を行うことになっております。</p> <p>次に、16頁をご覧ください。第4章子どもの読書活動推進のための取組として、令和元年度からの5年間で、取り組んでいく内容を記載しています。4-1では家庭における読書活動の推進のために実施していく内容を、4-2では地域において、4-3では保育園や幼稚園において、4-4では学校において、4-5では市立図書館において、それぞれ実施していく取組内容を記載しています。4-6では、子どもの読書活動を推進するための関係機関や団体との連携・協力について、4-7では、子どもの読書活動に関する普及・啓発についての取組内容を記載しています。</p> <p>次に、19頁から20頁の4-8数値目標をご覧ください。ここでは、第3次計画の進捗状況を確認するために、20項目の数値目標を設定しました。そして、本協議会において、毎年、数値目標や取組事業等について、進行管理と今後の方策について検討をしていくことになっております。なお、この数値目標につきましては、後ほど詳しくご報告申し上げます。</p> <p>以上で、これまでの経過と第3次和泉市子どもの読書活動推進計画についての説明を終わります。</p>
会長	<p>第3次和泉市子どもの読書活動推進計画についての説明がありました。何か質問がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>計画の4頁のグラフですが、平成29年のデータとなっておりますので、最新のデータがあれば教えていただきたいのと、もしデータがないのであれば、次にいつこのようなデータを取る予定か教えてください。</p>
事務局	<p>4頁の表のグラフについて最新の数値ということですが、申し訳ございませんが、最新のデータは取っておりません。というのも、こちらの平成29年のものは計画策定のために当時取ったデータでございます。次回の計画策定の際には、またデータを取るかどうか、ご意見を参考にさせていただきます。</p>
会長	<p>PDCAサイクルのCの部分にあてはまるかと思しますので、検討いただくようお願いします。</p> <p>すみませんが私からも質問です。読書活動推進計画について説明がありましたが、この計画が今年で4年目ということで、ここには載っていないことで教えていただきたいことがあります。計画策定当時には予測できなかったコロナ禍という状況になって、電子図書が注目されてきていますが、電子図書について何か取り組んでいることがあればお願いします。</p>
事務局	<p>電子図書館につきまして、本日は子ども読書活動推進協議会ということで対</p>

	<p>象が児童・生徒になりますが、図書館全体についてお話させていただきます。</p> <p>電子図書館の導入は昨年4月5日で、約1年4ヶ月経過しております。現在のコンテンツ数がトータルで12,595点です。おおまかな内訳になりますが、そのうち児童及びヤングアダルト層対象のコンテンツが1,619点でございます。なお、図書のように最初からこれは児童書という形で出版されていないので、内容を見ながらこちらで振り分けております。</p> <p>また、昨年4月5日の稼動した時点でのコンテンツ数は6,695点でしたが、今年の年明け辺りに、市のほうで地方創生交付金を活用して電子書籍を購入し、コンテンツ数がぐっと上がりました。あわせてそのタイミングで、広報いずみ2月号の巻頭で電子図書館の特集記事が掲載され、そこで利用がぐっと上がり、現在に至っております。</p> <p>あわせまして、今年の3月末の春休みの前に、図書館カードを持っていない市内の小中学校の児童・生徒にカードを登録して配布いたしました。さらに今年度に入って、小学校新一年生にもカードを登録して夏休み前に配布いたしました。その部分がどれだけ利用に反映しているか、まだこれからの比較分析になりますので今は説明できないのですが、全体としては2、3月のコンテンツ追加の時点で利用が上がりまして、また少しずつ下がってくるという状況です。</p> <p>実際のところ導入してまだ1年数ヶ月ですので、今後1年ごとに比較をして検証という形で考えています。その中で、市内小中学校の生徒・児童にほぼカードを行き渡らせたことによって、その年齢層がどう動くかというのを見ていきたいと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。もう一点質問がありまして、冊子の17頁に学校における読書活動の推進というところがありますが、現在の学校図書館における課題として、図書館を活用した授業を推進するために学校図書館整備や読書支援といったところに力を入れていくという状況になりつつあります。この計画策定の時点では書いておりませんが、読書活動推進に向けて必要だと思いますので、その辺りの現在の状況ですとか、読書活動という本を読むだけでなく調べるということも入りますので、そういったことについてお伺いできればと思います。またあわせて、学校司書の配置状況や学校司書連絡会などの活動状況を教えていただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>学校図書館を活用した授業づくりにつきましては、大阪府でスクールエンパワーメント推進事業というものがありまして、その中で学校図書館を充実活用するためのモデル校ということで、和泉市では令和3年度までの3年間を北松尾小学校が指定されておりました。今年度の令和4年度からは芦部小学校が指定を受けて研究を続けているところです。</p> <p>その内容につきまして、北松尾小学校での3年間の取組みですが、目指す姿としまして、一点目が言葉を増やす、まずは語彙を増やすということです。二点目が読書活動を習慣化して、活字にふれる機会を増やすということです。三</p>

点目が言語活動を通して複数の情報から自分の考えを形成して課題解決・発信しようとする子どもを育てるということで、以上のような狙いをもっております。学習指導要領の改定が平成29年度にありまして、今求められている学力を身に付けるため、図書館を活用した授業の中でこういった取り組みができるかというところで進めてまいりました。

具体的には、一点目の言葉を増やすということでは、子ども達の話彙力の低下を感じることがありますので、例えば形容詞であったり、昔からの美しい響きの言葉であったりとか、そういうカードを子ども達に配布しました。あと慣用句の階段ということで、子ども達は毎日階段が上がったり下がったりしますので、そこに慣用句を書いた紙を貼るとかいったそのような工夫をして取り組んでおります。

二点目の読書活動の習慣化については、読書ノートを作成したり、小学生新聞の置き場所を工夫したり、あとスキマ読書ということで必ず毎日自分で読みたい本を学校に持ってこさせておいて、授業時間が余ったときにすぐに読書ができるような環境を整えたり、そのような取り組みをしております。

あとやはり、三点目の学校図書館を活用した授業のカリキュラム化です。平成29年改定の指導要領で、学校図書館活用と読書指導の充実、あと情報の扱い方に関する授業ですね。それに基づいた授業づくりを行いまして、全学年の年間カリキュラムと指導案を作成して、さらにその時に活用する書籍の一覧を写真に撮って、この単位ではこの書籍を使って学習できるというような記録をとって報告したと、というのが3年目の段階になっています。それを市内全校に少しずつ広めている状況でございます。

そして、これらの取り組みに関連して、やはり学校司書の果たす役割が非常に大きくなっていると認識しております。和泉市ではかなり早く、平成十年代から学校司書を各学校に配置しております。ただ、有償ボランティアという形でご協力いただくという形がかなり長い間続いていたのですが、それが令和3年度から職員化されまして、1校に1名の学校司書を配置しております。それに伴いまして、活動内容に大きな違いはないのですが、やはり有償ボランティアですと校長が指示をして業務を命じるという形がとりにくいところがありました。職員化してからは、校長として学校司書の担う役割を明確にして、この業務をしっかりと担ってほしいといった形がとれるようになっております。

学校司書の連絡会も市のほうで年に3回開催しているのですが、やはりまずもって学校司書の役割や学校図書館のセンター機能といった基本のところから確認して取り組みすすめているところです。

具体的にご説明いただき、ありがとうございます。

引き続きまして議事の(3)令和3年度数値目標の実績について、事務局より説明をお願いします。

会長

事務局

A3サイズの横長の資料番号2令和3年度数値目標実績をご覧ください。先ほど申し上げました20項目の数値目標について、令和3年度の実績を記載し

	<p>ています。ただ、令和2年の初め頃から、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、緊急事態宣言で学校が休校、図書館が休館になるなど、コロナ禍により、外出自粛などさまざまなことが制限され、子どもたちはもちろん、我々の生活様式は大きく変わりました。これは、第3次の計画策定時には思いもよらぬことでした。</p> <p>この数値目標につきましても、例えばNo3のすくすくタイムの参加人数、No11の市立図書館における子どもの定例行事の参加者数です。行事そのものが中止となったり、開催したとしても参加者同士の距離をとるために参加人数を減らしたりなどしまして、コロナ禍以前の令和元年度の実績値からは大幅に減少し、目標値からは遠のくこととなりました。No5のぶっくんつうちょうの発行部数につきましても伸び悩みが見られ、令和3年度末時点での無料発行総数が6,813冊で、目標値には遠い状況となっております。</p> <p>ただ、No15の18歳以下の方の図書館利用率、No16小学生の図書館利用率につきましても上昇し、特に小学生の利用率は40.2%で今回目標値を達成しております。行事の参加人数が減ったものの、図書館利用率が伸びたことは、本への関心がある児童が多くいることが窺えます。</p> <p>次に、学校図書館につきまして、No9とNo10小学校及び中学校の図書館にて、令和3年度に学校図書館標準について目標値を達成いたしました。No13とNo14の一人あたりの学校図書館貸出冊数は令和元年度より減少しておりますが、蔵書冊数が増えたことにより、今後、貸出冊数が伸びることを期待したいところでございます。</p> <p>次に、No7小学6年生の不読者率につきましても、令和元年度の20.4%から約10ポイント増加し、30.1%となっております。一方、No8中学3年生の不読者率につきましても、令和2年度を除きまして平成29年度から44%前後でほぼ横ばいとなっております。いずれも、目標値には遠い状況となっております。</p> <p>未だ、感染症の収束の兆しが見えない状況ではございますが、感染拡大防止に努めつつ、少しでも令和5年度には目標値に近づけるよう、各事業について取り組んで参りたいと考えております。以上で数値目標の実績についての説明を終わります。</p> <p>ありがとうございます。それでは、数値目標の説明につきまして、質問があればお願いします。</p> <p>No15から18の目標値があまりにも心もとないというか、はっきり言って統計の誤差の範囲に入ってしまう目標なので、現実味がない数字になっていると思える。No7から10のパーセンテージは目標としてふさわしい数字ではあると思う。No16から18に関しては、実際のところ目標は横ばいなのかという感想です。</p> <p>ご意見として承りまして、今後の参考にさせていただきます。</p>
会長	
委員	
事務局	

<p>会長</p>	<p>また次の計画もありますので、参考になればと思います。</p> <p>概ね、令和3年度はコロナ禍の中でもちょっと回復して、このような状況になっているかと思いますが、コロナ前の数値なども勘案しながら見る必要があるかと思いますが、かなり状況が変わっているので、これらをどのように進めるかという点は、また精査というか検討してこれからも見ていく必要があるかと思いますが、先ほどの電子図書館のこともありますし、そういうことも勘案しながら、今後の計画の参考に考えていただけたらと思いますのでよろしくお願ひします。</p>
<p>委員</p>	<p>No20についてですが、令和2年度から3年度に倍増しているということで、大変努力された成果が大きく出ていると思ひ、さらに目標達成できており素晴らしいなと思ひて拝見しました。また、その対象が中学校ということなので、なかなか読書に課題があると思ひていましたが、そこでこれだけ貸出冊数が増えているということは、何か集中的に取り組まれたのなら、教えていただけたらと思ひます。非常に良い傾向だなと思ひ拝見しました。</p>
<p>会長</p>	<p>そうですね。良い数値が出ていますね。</p>
<p>事務局</p>	<p>現場としては、結果としてこの数字が出ているのは、団体貸出で図書館から小中学校に搬送して図書を定期的に動かしていたことが大きいと思ひます。コロナ禍で図書館に行かなくても学校で本を借りることができる、というところからこのような数字が出ているのかなと思ひれます。</p> <p>図書館全体でいいますと、経常ベースだと直近で令和元年度になると思ひますが、その数値と比べると来館者数が戻っておりません。ただ、それに比べて貸出冊数は戻りつつあります。本の利用はおそらくですが、今までは子どもと保護者が一緒に来館していたのが、コロナ禍ということで家族から代表の一人が家族それぞれのカードを持って借りにきている、そういう動きになんともなくなってきているように感じます。</p> <p>この団体貸出はわりと安定して要望がありまして、学校でもうまく利用していただいているのかな、と思ひれます。</p> <p>あとここには載っておりませんが、学童保育への配送も令和3年度から始まりまして、学童保育への貸出冊数も増えてきているので、団体貸出が活性化している動きが見られます。</p>
<p>会長</p>	<p>先ほど令和3年度に学校司書を職員化されたというお話があつて、学校司書が窓口になって学校図書館との連携ですとか、学校側の要望も増えたのではないかと、この数字を見て思ひました。</p>
<p>事務局</p>	<p>そうですね。学校司書のほうは令和3年度以前も団体貸出を活用していたと思うのですが、学校図書館を活用した授業を行う際に学校図書館の蔵書だけで</p>

<p>会長</p>	<p>はやはり心もとないところがありますので、そういった授業を行うにあたっては団体貸出をしないと実施が難しいので、そのあたりがこの貸出冊数につながってるのかなと感じました。</p> <p>こういった数字が上がってきているというのは力強いと思いますので、今後ともよろしく願います。他にご質問はないでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>No9と10について、学校図書館の図書標準も達成しているということで、去年も今年も数字が上がっていて、とても素晴らしいなと思いました。</p> <p>お伺いしたいのがNo14についてですが、平成30年度からどんどん子ども一人あたりの中学校図書館貸出冊数が減っていて、目標の16.0冊を達成できなさそうな状況になっていると思われます。これについて先ほど蔵書冊数が増えたので貸出冊数も増えることを期待したいという話をされていたと思いますが、それ以外に貸出冊数を増やすための施策などを行う予定ですとか、既に行っていることなどがあれば教えていただきたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>No14ですね、貸出冊数がなかなか伸びないということですが、これは不読率ともつながっているところだと思います。やはり何らかのそういう手立てをうって、学校図書館や市立図書館に子ども達のがのっかっていくような、そういう仕掛けも必要だと思いますが、やはり根本にありますのは、子ども達が読書をする、読み解く力ですね。もともとこの計画の冒頭にも、読み解く力を身につけるためには読書が欠かせない、という記載があります。当然、それは一つの方向性としてその方法がありますが、かたや、逆の方向ですね。読み解く力を最低限身につけて初めて読書ができるという視点もあろうかと思います。</p> <p>その辺りが先ほどの北松尾小学校の取組みの中でもふれました語彙力をつけてあげることですね。北松尾小が実践している取組みで、言葉の泉という形で冊子を編集しまして、和泉市内のいろんな学校でも活用を進めているところです。あと暗唱などですね。そういったものが子ども達の言葉を豊かにして、読書の増加につながるという視点で、暗唱の取組みを進めている学校もありますし、他にもやはり文章を読み解く物差しですね。どうやって読み解いたらいいのか分からないままに本を与えられて、さあ読みなさいとなっても、子ども達は苦しいところがありますので、ひとつの手法として、例えば分析などですね。主人公であったり、配役は誰かであったり、クライマックスはどの部分になるのかと、そういったところを授業の中で行って、子ども達に読み解く力の基礎を身につけていくことが、読書の貸出冊数や、読書率の上昇につながるのかなというふうに考えています。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは議事の(4)令和3年度の事業報告について、事務局より説明をお願いします。</p>

事務局	<p>資料番号3 令和3年度新規・継続取組事業まとめをご覧ください。この資料は、令和3年度に各部署が行った、新規と継続事業を取りまとめたものでございます。</p> <p>はじめに1頁の目次をご覧ください。2頁から14頁までが、各図書館と生涯学習担当で、新規に行った事業の詳細について記載したものでございます。次に、15頁から21頁までが、各部署で継続して行っている事業について記載したものでございます。最後に、22頁には、にじのとしょかんでの特別行事についての記載でございます。</p> <p>先ほども申し上げましたように、コロナ禍によりまして、新規ならびに継続で催しなどを企画していたものの、中止になったり、規模を縮小したり、従来とは形を変えて行うといったケースが多々見られました。そして、行事などの実施にあたっては、感染拡大防止に細心の注意を払いながらの開催となりました。</p> <p>さて、令和3年度に新規で取り組んだ事業の中から、No14 市内小中学生を対象とした図書館カード作成・配布 についてご紹介いたします。14頁をご覧ください。こちらは、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用しまして、市内小中学生で図書館カードを持っていない児童・生徒を対象として、図書館カードを作成・配布いたしました。コロナ禍などで外出することが難しい児童・生徒が、家の中でもスマートフォンやタブレットで読書することができるよう、電子図書館の利用の促進を目指したものでございます。もちろん、図書館に興味を持ち、来館するきっかけになることを願ってのことでもございます。なお、中学生にカードを配布したのが今年1月末、小学生に配布したのが今年2月中旬のため、徐々に何らかの効果が現れることを期待したいところでございます。また、この事業は、令和4年度以降も継続予定でございまして、今後は小学1年生を対象としまして、カードを作成・配布する計画となっております。</p> <p>今後も、感染拡大防止に配慮しつつ、子どもの読書活動促進につながるような取組みを実施してまいりたいと考えております。以上で、令和3年度事業報告についての説明を終わります。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>こちらを見せてもらって、例えばボードゲームですとか、「みんなでたほいや」ですとか、いろいろと面白い取組みをされているので、コロナ禍で大変だと思いますけど、そういう取組みについては今後も続けていただければと思いますので、よろしく願います。</p> <p>それでは、資料番号1から3につきましては、事務局からの報告と質疑応答を済ませましたので、続きましては議事（5）その他ということで、ご意見ご質問をお伺いするところでございます。で、これまでもおいでいただいた方に何か一言ずついただいておりましたので、今年度初めての会議でもありますので、委員の皆様にご意見やご質問など、ひとこといただきたいと思っております。</p>

委員	<p>事業報告の2頁のボードゲームについてですが、実施されたのが8月29日で夏休みがもう終わっている段階なので、なぜこの時だったのかなと思いました。というのは、せっかく体験したゲームをご家族で集まるときなどに、図書館でこんなやつたけど面白いからまたやろうよ、といったことができるかと思うので、それこそお盆の前やお正月前、クリスマス前といった時期にこのような催しをしたほうが効果が大きくなるのでは、という感想を持ちました。</p> <p>あと、私自身の古い話ですが、子どもの頃に怪人二十面相とかシリーズものを読むのが好きで、毎週のように親に図書館に連れて行ってもらっていました。そのことを思い返すと、小学生・中学生で、自分で図書館に行ける子ども達はいいですけど、なかなかそうではない所に住んでいる方をどのように巻き込んでいくのか、つまり保護者のご足労をいただかないと、なかなか裾野が広がっていかないのかなと思います。今回は子どもの読書をターゲットにした協議会ですけども、大人にも目を向けて、大人の方をどのようにして呼んでいるのかというのが分かればよかったかな、と思います。とにかくターゲットは子どもであっても、大人を巻き込むということは特に催しものについては必要かなと思いました。</p>
委員	<p>高校の図書館の現状をお話しさせていただきます。学校によって状況はさまざまですが、当校の場合、図書館は10人ほどの教員が学校の仕事の一環として運営しております。ただ、他にも山ほど仕事はありまして、なかなか図書館業務だけに専念することもできず、時間もないという状況で、図書館の開館時間を、私自身当校に赴任して8年目くらいになりますけれど、教員の人数も減らされていき、仕事は増え、図書館を開ける時間の余裕もなく、毎日お昼前後と放課後5時まで開けていたのが、昼休み週1回と、開館時間もちょっと短縮してという感じで、縮小傾向にあります。ただ、本を読みに来るのと、家にも居場所がなかなかないという子達のために開けようかということで、夏休み中も何回か開館しました。去年と今年、何日か教員の行けるところで開館するという形でやっております。</p> <p>生徒のほうは、なかなか活字とか本に親しんでいる子達ではないので、開けていても図書館に来るのは毎日数人ずつくらいで、それでも本好きな子は毎日来ています。傾向を検証して、いろいろコミックスも含めて購入していますけれども、図書館に来て本を読む、借りるということがなかなか受け入れてもらえない状況です。</p> <p>やっぱりちゃんと学校図書館の司書をきちんと他の教諭と同じ時間帯に働ける人を配置してほしいな、と常々思います。昔は週3という形で何人かいらっしやっただけのうち、お一人は図書館専任という形で配置していただいていたのですが、どんどん減らされてしまいました。一方で、恵まれている高校は、図書館をずっと担当している先生がいらっしやいますけれども、当校はそういう専任の図書館担当の人がずっといないんです。それはやっぱり図書館とか読書とかいうのを生徒に広めていくうえでは、厳しいなと思っています。</p>

委員	<p>また、小中学生の利用が減っているということですのでけれども、やはり年代が上がるにつれて活動の場がいろいろ増えて、なかなか図書館に足を運ぶ機会もないかと思います。塾に行って時間がないということもあると思います。</p> <p>あと、これは労働環境の問題にもなりますが、開館時間をもう少し融通してほしいなっているのは、私も子どもを図書館に連れて行っていた時に思ったことです。5時とかで閉められると、ちょっと厳しいことがありましたので。</p> <p>それから、読書にあまり興味や関心がないという保護者が多いということですが、生活が苦しいと本を読むという余裕がないです。ですからその辺りは、生活支援とかそんなところとも関わっているように思います。</p> <p>当校の現状を簡単にお話させてもらおうと、司書教諭という立場で学校にいますが、今は生徒会が図書館を運営しているという形になっており内部的なことを担当していて、体外的な活動といった部分は私が担っている、という形になっています。</p> <p>図書館の開館は毎月この日とか決まっていて、その決まった時間に子ども達と先生と一緒に来て、DVDを見たり、おのおの好きなものを見たり、借りて帰るといった感じです。なんとなく支援学校の様子が伝わってもらえればと思います。</p> <p>何か図書の仕事ができるような余裕も正直なくて、生徒会の先生が空いている時間に子ども達の貸出のお仕事の手伝いをさせてもらって、ちょっと勉強をしたりとか、そのような形しかできない現状かな、と思います。</p>
委員	<p>保育園の現状をお話させていただきます。保育園の中で絵本貸出というのを毎週していたのですが、コロナ禍のため一定の期間、借りて帰るのをやめましようということになって、家庭に持ち帰ることをストップしていた時期がありました。ですが、去年あたりから徐々に再開して、保護者と一緒に本を読んでもらう機会を増やしていこうということで、少しずつ絵本貸出ですとかが元のように戻ってきています。</p> <p>また、園としましては、1日に1冊は必ず読み聞かせをしており、保育者が絵本を読む時間をつくっています。保育時間が長いお子さんに関しましては、3,4冊くらい聞いています。</p> <p>だんだんと年齢が上がるにつれて、読書の機会がなくなってくるというお話を聞いて、やっぱり低年齢から絵本に親しむ機会を多くもって、年齢が上がっていくことになっても、子ども達にできるだけ絵本と読書に興味を持ってもらえるようにできればと思って、今日のお話を聞かせていただきました。</p>
委員	<p>幼稚園も、保育園と同じように毎週、絵本の貸出をしています。絵本貸出をするとほんとにボロボロになるので、買い足したり修理したりするのですが、ボロボロになる絵本はもう決まっています、迷路だったり間違い探しだったり、物語ではないんです。物語の絵本はすごく人気は低いです。そこをどうしていったらいいのかということも含めて、職員で子ども達の様子を見ながら話</p>

	<p>をするのですが、子ども達は絵本を選ぶっていうことがまず難しいです。子ども達を連れて図書館にお出かけに行って、1冊気に入った絵本を借りましょうという活動をしたときもあるんですけど、もう決めることができない。たくさんある中で、どれを自分が気に入るのがまず分からない。</p> <p>そのような状況なので、子ども達の生活体験と絵本を結びつけるということがまず最初かな、ということになりまして、虫を探している子が多いなと思ったら、職員が虫の本をたくさん見えるように並べておくと、子ども達は興味を持った様子で、それを借りていくという姿が見られました。</p> <p>先ほど、美しい言葉にふれるとか、読み解く力を身に付けていくということを小学校で実施していけたらというお話をお聞きして、では就学前の子ども達はどんな力が必要かなっていうことを園に持ち帰って、職員で相談しながら進めていけたらいいなと思います。なるべく子ども達の生活体験とお話を結びつけながら、絵本を身近なものに感じてもらうところからスタートできればいいのかなと思いました。</p> <p>資料番号2の表を見ておりますと、小学生、中学生世代の子がちょうど自分の孫の世代なんです。その様子を見ておりますと、借りる冊数が減っているというのも当たり前のように思うんです。スマホやユーチューブが流行っていて、それに夢中なんですね。ですから、小さい時に本が好きでも今はほんまに読まない、そういう現実だなと思います。ですから、もう勝負は小さい時、その時に本を好きであれば、もっと力がつくと思います。子どもの時が大事だと思います。</p> <p>それから、冊子の16,17頁を見せてもらったときに、地域におけるとか保育園幼稚園でとか書かれていて、一番下にボランティア等における読み聞かせの充実ということが書かれていますよね。それでちょっとお聞きしたいと思ったのが、どのくらいのボランティアサークルが和泉市にあるのだろうか、ということです。きっと需要が多いと思います。いつも活動されているボランティアの方達の中にもだんだんお年を召したりする方もいて、減る一方になっているかもしれませんが、こういう活動を好きな人はまだまだたくさんいると思うんですね。だからそういう埋もれている人達を掘り起こして、サークルのメンバーを募集しておくのも一つかなと思って。例えば養成講座のようなものを開催したりして、そういうのが好きな人をどんどん掘り起こして、ボランティアの人達を増やしていくことによって、こういう活動の場のお手伝いができるんじゃないかな、と思うんです。どれくらいのサークルがあるか教えてください。</p>
委員	
会長	<p>ボランティアの数については、後ほど事務局からお願いします。次の委員さん、よろしくお願いします。</p>
委員	<p>私自身に1歳の息子がいて、4ヶ月健診のときにブックスタートで絵本をもらって、カバーがちぎれるくらいボロボロになるまで読みました。それからシティプラザの図書館に月に1回ほど一緒に行かせていただいています。それで、</p>

	<p>やっぱりなかなか暑い時期とか寒い時期っていうのは、借りたものを返さないといけないって思ってるんですけど、小さい子どもがいるとちょっと足が遠のいてしまって返却期限が遅れることがあります。ただスーパーには週に1回くらい行くので、そこに返せるボックスみたいなのがあればもっと嬉しいかなと思います。あと、読み聞かせなどのイベントがお昼からのことが多いように思えて、2時台だとけっこうお昼寝しちゃうので、午前中だと個人的に助かると思いました。</p> <p>そして、皆さんおっしゃるとおり、読み解く力が大切だということですけど、私自身が母に小さい時からずっと図書館に連れて行ってもらっていました。また、小学生のときに自分は恵まれていた環境にあるかなと思ったんですけど、小学校の担任の先生が、ロング休憩という長い休憩時間に図書館に行くことを促してくれたので、自分のいた小学校のクラスが、みんなすごく本を読んでいたイメージがあります。なので、小学校のほうでもそういう声かけとかがあればいいのかなと思います。</p> <p>私も高校生の時に 아이폰、スマホが流行って持つようになって、一度本を離れたんですけど、やっぱり幼少期に本が好きだったので、またこのように本に戻ってきました。本を読むって受験の時もすごく役立ったので、自分の子どもにも同じように学んでいってほしいので、こうやって今、図書館に連れて行っています。この幼少期に図書館に連れて行くっていうお母さんへの声かけも、4ヶ月検診じゃなくて、もっといろいろしていただければいいのかなと思います。4ヶ月検診は自分がいっぱいいっぱいだったので、半年後とかかかりつけの医院に行きますので、そこで何か図書館の案内を配布するとか、冊子を置いていただけるといいのかなと思います。よろしくお願いします。</p>
会長	<p>ブックスタートのお話が出ましたが、前に伺ったときはタイミング的にできない状態でしたが、現在はどうなっていますか。</p>
事務局	<p>ブックスタートについては先ほどおっしゃったように4ヶ月健診で本を1冊プレゼントしていますが、本来でしたら本をお渡しするのに加えて、図書館スタッフが健診に来られた子どもさんと保護者の方に向けて絵本の読み聞かせをして、図書館の案内などもしております。ただ、コロナ禍ということでそれをちょっとストップしております。あと、1歳半と3歳の健診のときも従来でしたらフォローアップということでブックリストをお渡しして読み聞かせもしていたのですが、やはりコロナ禍ということでブックリストのお渡しだけになっています。コロナ禍が収束すればまた再開したいと考えておりますので、ご了承のほどよろしくお願いします。</p>
会長	<p>今は読み聞かせを控えているという状況ですね。</p>
委員	<p>図書館の読書ボランティアをしております。私達は本との出会いの場づくりのようなものと思っています。</p>

私自身も読書のボランティアの講習を受けまして、地域の読書ボランティアとして小学校、それから地域の保育園やこども園、他にもいろいろ出向いております。南部リージョンの図書室での月に1回のおはなし会にも参加しております。活動はもう14年目くらいになるかな、と思います。

高齢化のお話も出ていましたが、小学校の3階のクラスに行くのに階段を上って、さあ本を読もうと思ったらやっぱり息がしんどいです。本を読むまでの間に子ども達に挨拶して話しかけながら息を整えるんですけど、高齢化してきてページを読み飛ばしてしまったり。本の手前のページは見やすいけど、向こうのページはちょっと読みにくいんですね。そういうことが高齢とともに起きてきまして、年齢的に今年で辞めますっていう人が増えてきているので、今度はぜひ新しい若い人にボランティアに入っていただきたいなと思ってます。

私が入っているやまびこというグループは、16名のメンバーがいます。小学校へ月に1回、8時25分から8時40分までの朝の読書の時間に訪問しているんですが、1年生から6年生まで一斉にその時間は読書ボランティアが入り込んで本を読ませていただきます。私達も1年生にはこの本とか、6年生にはこの本とか、季節的にはこの本を絶対読みたいとか、自分も楽しみながら子ども達に読ませていただいています。

たまたま私が行っている小学校は人数が少ないので、十分な安全対策をしますので来てください、という学校さんの意向で、子ども達には間隔をとってもらって、私達もこの時期にでもできる対策をして読ませていただいています。でも、サークルの中でも、大規模な学校では密になるし、おはなし会というのはほんとに子ども達と対面になりますので、長期間行けないという学校もあります。

あと、保育園、幼稚園、こども園ですが、私が関わっているところでは、今でも保護者の方さえ子ども達の中に入っていくことを控えておられる時期なので、2020年以降は園での活動はストップされている状況にあります。幼稚園、保育園、こども園で小さな子どもと関わらせていただくことは楽しいのですが、それがストップすると残念です。早く活動させていただければいいのになって思います。

南部リージョンの図書室でのおはなし会は、月に1回おはなしタイムということで活動してるんですけど、コロナ禍で開催を見合わせる月もあります。このおはなし会には、お母さんと子どもが一緒に来てくれることが多いです。これはすごく嬉しいことで、お母さんも喜んで楽しんで見てください。お父さんもお母さんも家族で来てくださって、小さな子どもさんでしたら何冊か読んでるうちに図書館の中をすーっと歩いていっちゃうんですけど、それを気にしながら保護者の方達が喜んで絵本を聞いてくださって。これって素晴らしい時間を持たせていただいているなあ、といつも感動しています。私達はこのようなボランティア活動をしています。

小学6年生の孫がいるのですが、前に、学校の図書室でたくさん本を読んでもらって尋ねたんです。そしたら「コロナの前は図書司書の先生の読み聞かせがすごく楽しかったけれど、今は集まってお話を聞くことができなくなって、

<p>会長</p>	<p>なくなって残念。」と生の孫の声を聞いたんです。その孫が、やっぱり大きくなってきたら本を読まなくなってしまって。あれだけ保育園や幼稚園で本に囲まれて、毎日毎日先生達に本を読んでいただいて、それを楽しんでた子ども達がこうなって残念です。</p> <p>電子図書という新しい方法もありますし、実際の紙の絵本じゃないといけな いっていうことはもちろんないと思うんですけど、自分の周りに本がいっぱい あって楽しんでたから、あの世界が懐かしいなあって思う今日この頃です。</p> <p>では、事務局からボランティアの育成とか現在活動されている人数をもし把 握されていれば、合わせてお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>図書館のホームページにボランティア紹介のページがございまして、それを見 ていただくと分かりやすいと思うのですが、今は図書館で活動して登録され ているいろんなボランティアサークルが今は12団体ございます。そのうち4 団体がボランティアのメンバーを募集されています。詳しくはそちらをご覧 いただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>小学5年生と年長の子どもがいるのですが、下の子もようやく字が読めるよ うになって、本が読めるようになってきました。幼稚園で絵本を借りてきて います。</p> <p>先ほどの話ですと、校長先生もおっしゃっていたように、働いている保護者 は時間がないかな、と感じました。ただ、冊子の9頁ですね、本が好きですか？ という質問に「いいえ」という回答が40%ということですが、これはなかな か高いような気がします。</p> <p>私は本が大好きでして、実際には子どもを寝かしつけてからやっと本を読む といった感じで、もしかしたらそうではなくて、自分が本を読みながら寝かし つけというのがいいのかな、と今ちょっと感じました。実際にそうできる家庭 はあまりないかもしれませんし、毎日読むというのは難しいとは思いますが、 年に一週間とか期間を設けて、その間に身近に親と子どもと一緒に本を読む時 間をつくってあげればいいのかと感じました。</p> <p>そして冊子の4,5頁、中学3年で読書が好きな生徒が65%、本を読まな い生徒が60%ということで、いろいろ葛藤もあるんだろうなと感じます。実 際にやっぱり中3は、勉強のプレッシャーが親からもあるんだろうなと思いま す。で、そういう中でも親がしっかり本を読む時間を確保してあげるというの は、受験にはデメリットになるかもしれませんが、将来ということを考えれば 良かったということになるんじゃないかなというのは少し感じました。</p>
<p>委員</p>	<p>子育て支援の場で活動しております。子育て支援の中では、絵本は欠かせな いアイテムだと思ってます。図書館のほうでも出前講座とかいろんな子育て関 係の催しをされているので、小さいお子さんを持つお母さん達で、その時間 に行ける方は絵本が大好きだと思うんです。ただ、貧困とまではいかなくても家</p>

委員	<p>計が苦しいとか、一日フルタイムで働いてるお母さん達とかパートで働いている方もそうなんです、お母さんって忙しいんです。なので、子どもさんに絵本を読んであげる時間を作るのが大変。作りたいとは思ってはると思うんですけど、なかなかそういう環境におられるお母さんが少ないのかなと思います。私は子育てサークルとかエンゼルハウスにも関わらせていただけてますが、そこでお会いできるお母さん達は時間などの余裕がおありなんだと思います。ただ、その余裕のないお母さん方こそ絵本を介して子どもさんとふれていただけたらいいな、というふうに私は思ってます。</p> <p>いろいろな方々のお話を聞くことができまして、すごく勉強になりました。私は図書館の研究ですとか図書館に関する授業をしてたりするんですけど、個人的には、図書館に行ってがっかりするっていうのをなくすことが、図書館にとってすごく大事だと思っています。そういう意味で、先ほどもお伝えしましたが、蔵書冊数を増やすであつたりとか、それ以外のいろんなサービスを提供するっていうのは、実績の数字を上げようとしているっていうのは、とても素敵だなと思っています。</p> <p>それから、もう一つ大事だと思っていることが、図書館に行くような習慣がない人達のハードルを下げることであつたり、先ほどの話にもあつたとおり、しばらく行ってなくて久しぶりに行こうと思った人達が図書館に行くためのハードルを下げるっていうのがすごく大事だと思っています。SNS、図書館ツイッターを始めたりとか、あと館内の写真をかなりホームページの中で増やしていると思うんですけど、そういうことはとても大事だなと思いました。</p> <p>仕事柄全国のいろんな図書館に行つてまして、学校図書館もいくつか行っているんですが、地域によってすごく差があつて、開館時間や職員の数もすごく違つていて、でも、そこに生まれた子どもや児童にとっては、自分の小中学校しか知らない、自分の町の図書館しか知らないっていうことになります。もちろん予算の関係であつたり、先ほどの話だったら労働環境ですとか難しいところはいっぱいあると思うんですけど、小学生とか中学生が大人になったときに、自分がいた所は恵まれていたんだな、と思えるような図書館を作つてほしいなと思います。あと、先ほどのお話でもあつたとおり、閉館しててがっかりすると、もうずっと来館しないまま大人になってしまう可能性もあるので、そういう意味でも難しいのはもちろん分かつてはいるんですけど、現場の声を聞いたりとか、開館時間を増やすとか、ちょっとずつがっかりが少なくなるようなことをしていただけると、とてもいいのかなと思います。</p>
委員	<p>中学校現場からお話させていただくと、図書館からの貸出がちょっと増えているということで理由を考えたんですけど、やっぱり修学旅行の事前学習であつたりとか平和学習をする時に、どうしても学校の蔵書だけでは調べきれないことがあつて、市の図書館にお願いして関連の書籍をお借りしたりと、私自身も何度かお願いをして貸してもらつていたことがあります。ちょっとコロナが落ち着いてきて、平和学習や修学旅行も落ち着いて事前学習から行えるように</p>

なってきたのが、貸出が中学校のほうでも増えてきている要因なのかなって個人的には感じています。

生徒に一人1台GIGA端末が導入されて、調べ学習等でもやっぱり図書館の本よりも子ども自身がパソコンのほうで調べる機会がすごく増えていて、図書館の利用率が少なくなっているのは、そういう部分もどうしてもあるのかなと思います。調べるということに関して、やっぱりパソコンのほうがコンテンツとして強い部分があるので、そういうところに行ってしまうがちなんですけれども、やはり本を読むっていうその楽しいところを子どもにどうやって伝えていくかというのが一番大事なところかなと思います。

前に生徒になんで図書館へ行かないのか聞いたところ、「読みたい本がない、行っても貸し出されてて読めない、読みたいシリーズものがない」と言うんですね。やっぱりそのシリーズもの、小学生だったらかいけつゾロリであったり、銭天堂であったり、そういうシリーズものを読みたいんだけど、その最新刊が図書室や図書館に行っても、貸出中で何人待ちということで読めない、と。そういうのがやっぱり多いですね。

あと電子図書について、複数人が1つのコンテンツを一斉に見ることが可能でしたら、一斉に何人まで読めるのでしょうか。100人がアクセスできるのなら、100人の人が本を読む機会を得ることができる。そうなれば子どもが読みたいと思った気持ちのタイミングで本が読める。紙ではなく電子媒体になるけれども、子どもの気持ちにフィットした時に、一番いいタイミングで本を提供できるような新しい形になるのかなと思っています。そのようなことができれば、図書館に本を選んでいただいて箱に詰めていただいて、何キロにもなるような箱を何箱も学校へ持ってきていただいて。そういう作業をしていただいている労力も、もしコンテンツ化されていると、このコンテンツで見てくださって学校に紹介いただければ、解消すると思います。やっぱり調べたい本が集中してしまっていて、お借りしてる本も見れないという子どもが出てくる状況が解消すると、新しい読書の姿っていうのが見えてくるのかなって個人的には思っているところです。それで、コンテンツは一斉に何人まで見れるとかってあるんですか？

事務局

和泉市立図書館で導入している分については、基本1コンテンツから3コンテンツのものがありまして、これは出版社で決められています。コンテンツ数が多くなれば、本でいうと複本になって、それが価格に反映してくるので、同じものをたくさんの人が見れるほうがいいのか、種類を増やすのほうがいいのか、という選択になります。

もうひとつは、電子図書館で普通の本と違うのは、期限付きのコンテンツが売り出されることがけっこうあって、例えば2年間とか3年間とか期限付きのものには人気があるコンテンツが多いです。ただ、そうするとその期限がきたら、もう買いなおすか別のものを買うということになります。市の蔵書として買うときに、やっぱりどうしても期限がきたらなくなるものを買うとなると、どのように選書するか難しいところがあります。

<p>会長</p>	<p>あと、朝読の時間に一齐に全学年が電子図書館にアクセスしてきて動かなくなったケースが起きた自治体もあるようです。想定してないことが起きたりとか、いろいろハードルがあるんですけども、学校で使っていただくっていう以上は、おそらく今後どのような仕組みを作るのかっていうのは、おそらくコンテンツを販売する業者さんの範疇の話になると思いますけど、必ずニーズがあるので、そのうち動きがあるかもしれない、と思います。</p> <p>ありがとうございます。それでは皆様、参考になるご意見をどうもありがとうございました。また、事務局においても、たくさんのご意見を確認して、今後活かしていただきたいというふうに思います。</p> <p>私自身もたくさんの方々の声を聞いて、非常に有意義な会議だったと思います。ありがとうございました。他にご意見がなければ、議事としてはここでいったん終了させていただきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>会長、どうもありがとうございました。皆様方には本日は貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。少し話が変わりますが、生涯学習推進担当から簡単にお話させていただきます。</p> <p>生涯学習担当につきまして、前までは読書振興課という別の課があったんですけど、現在は生涯学習担当に図書業務が組み込まれて、生涯学習関係の一環として業務をしている状況でございます。</p> <p>その中で、実は今年度、生涯学習推進プランの巻き替えと併せて、スポーツ推進プランのほうも巻き替えのタイミングでして、現在はスポーツ担当と生涯学習担当で生涯学習推進室という一つの室でございますので、この2つのプランを一緒に巻きなおそうという取組みを始めております。その中に先ほど申し上げました生涯学習担当の中に図書の業務も入っておりますことから、新しい計画の中に図書だけではなく横断的にいろんなことができるように、先ほどご提案がありました図書館に興味のない行ったことのない人をどうやって取り込むかですが、いろんな幅広いきっかけで図書館に来ていただけるような取組みも可能性としてはあるんじゃないかということもございます。子どもの読書のみならず、今日の話が反映できたらと思っていますので、そういうところでも皆様にご協力をいただきながら、今年度プランをすすめていくということを皆様にこの場をお借りしまして情報提供といえますか、お話をさせていただきました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>委員の皆様方のお陰をもちまして、令和4年度第1回和泉市子どもの読書活動推進協議会を終えることができ、厚く御礼申し上げます。今後とも本協議会へのご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。なお、次回の開催につきましては未定でございますが、日程が決まりましたらまたご連絡させていただきますので、ご参集くださいますようお願いいたします。</p> <p>本日はご出席いただきまして、誠にありがとうございました。</p>

会長	皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。
----	-------------------------